

施設名	福知山大堤防(のちの岩沢堤)								
所在地	京都府 福知山市								
管理者等	国土交通省 近畿地方整備局 福知山河川国道事務所								
施設分野・種類	河川		堤防						
施設概要 (明治期との関連含む)	<p>明治40年8月の大洪水は、福知山市に明治29年と同様な大被害をもたらしました。その災害復旧工事には、2ヶ年の歳月を要して、明治42年7月18日に完成しました。</p> <p>そのとき復旧された堤防は、高さが11m、長さが1,200mの大規模なものであり、「福知山の堤防」が完成したと報道され、溢水防備のために全面が石張構造となり、洪水防御に大きな期待がこめられていました。(文献1より引用)</p>								
	 <p style="text-align: right;">文献2、文献3より引用</p>								
築造時期	明治後期			時期詳細	明治42年				
関連人物	ヨハネス・デ・レーケ、岩沢忠恭								
関連企業	—								
トピックス (特徴的エピソード)	<p>明治政府は、明治6年にオランダ人工師を招聘し、近代河川工事に着手しましたが、その一人であるヨハネス・デ・レーケが明治23年11月に京都府下へ出張の際、由良川改修のために河口から綾部間の踏査・測量を行いました。その結果、由良川改修について、具申しました。</p> <p>その後、昭和2年の北丹後地震によって亀裂や凹凸が生じ、さらに、基礎地盤が砂礫で堤内に湧水が多く、由良川の水位上昇に伴う浸透を防止する必要があったため、表面をコンクリートで覆うとともに、堤脚部にドイツ製の鋼矢板を約2,600枚打ち込み、浸透水を遮断した強固な堤体として復旧しました。</p> <p>災害復旧は被災箇所の補修という査定でしたが、当時の町長が建設省技官の岩沢主任査定官に熱意ある説明を行い、これが了承されて、鋼矢板をドイツから輸入してまで復旧することが認められ、福知山の人々は、この堤防を親しみをこめて岩沢堤と呼ぶようになりました。(文献1より引用)</p>								
歴史的な遺産等の指定の有無等	—	選奨土木遺産 (土木学会)	—	文化財 (文化庁)	—	近代化産業遺産 (経産省)	—	世界遺産 (ユネスコ)	—
その他 (関連資料、文献)	<p>文献1：由良川 発行／建設省 近畿地方建設局 福知山工事事務所 平成10年3月(非売品) 編集／由良川改修50年史編集委員会</p> <p>文献2：国土交通省 水管理・国土保全局HP 日本の川 — 近畿 — 由良川 — (http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kasen/jiten/nihon_kawa/0615_yuragawa/0615_yuragawa_01.html)</p> <p>文献3：福知山河川国道事務所HP 由良川電子資料館 水害の歴史 (https://www.kkr.mlit.go.jp/fukuchiyama/river/shiryokan/aramashi_3.html#)</p>								
管理者等のHP (URL等)	福知山河川国道事務所 http://www.kkr.mlit.go.jp/fukuchiyama/								